

ひっば

Vol.473 2025. 12

近森会グループ

社会医療法人近森会／社会福祉法人ファミーユ高知

生成AI活用 チャレンジ2025 開催！

–あなたの挑戦が未来を変える–



〈入江理事長プロジェクト〉本院正面玄関フロア整備計画

医療情報

- 心房中隔欠損症に対するカテーテル治療
- 手術部門システム導入～“見える化”と“連携強化”～

近森病院附属看護学校 創立10周年記念式典

近森病院

近森リハビリテーション病院

近森オルソリハビリテーション病院

からのお知らせ

12月30日(火)～1月4日(日)は休診です。※近森病院救命救急センターは24時間対応いたします。

入江理事長の Project

近森会の今後の新しい
プロジェクトについて、順次ひろっぽでお知らせします。

プロジェクト 12

社会医療法人近森会 理事長

入江 博之 いりえ ひろゆき

本院正面玄関フロア整備計画 ～ワンストップセンター（仮称）を含む～

薬剤タワー並びに空中通路が2026年6月に完成予定です。その後、薬剤部が移転し、本院正面玄関フロアに広いスペースが発生します。



このスペースにワンストップセンター（仮称）①を設置したいと考えています。ワンストップセンターとは、入退院手続きや各種相談をここ1ヵ所でまとめてできる場所という意味です。現在の入退院センターの機能、地域連携さらにはコマンドセンターや医療相談室などをここに移動します。さらに、隣の医事会計や総合受付との間に通路を設け、人の往来を可能にします。これにより正面玄関から入った右手側に、入退院などに必要な設備がすべて整備されることになります。

ワンストップセンター奥はコマンドセンター②とし、すべての入院患者さんの情報を大型ディスプレイで一覧できるようにし、スムーズな退院や転院が行えるようになります。ワンストップ

センター受付に配置する相談デスク③のほかに、奥には相談ブース④を4ヵ所設置し、より複雑なご相談に対応します。相談デスクの横には入院時の必要物品レンタルを扱うブース⑤を移動し、入院患者さんの利便性を高めます。元あった売店を本館3階に移動することにより、ワンストップセンターの待合スペースを十分確保することができると思います。

現在の入退院センターが移動した跡は、患者さん及びご家族の休憩並びにイートインスペース⑥になります。現在、正面玄関横に仮設されている発熱外来はER横⑦に移動することで、正面玄関ホールを大きく取ることが可能になります。玄関ホールには水槽の代わりに大型ディスプレイ⑧を設置し、様々な情報を表示したり、バーチャル水槽なども考えています。

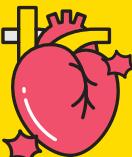
発熱外来は、ER横の個室に移転することにより、ERからの職員の移動や検査などが大変容易になると思われます。また、1階の画像診断エリアではベッドや車椅子の待機

救急



年間7,000件!
中四国屈指の救命救急センターからの実績報告

心臓治療



心臓病は怖くない!
心臓救急の最前線

連携搬送



つながる命、広がる医療。
一連携は進む、
救命救急と地域のチームワーク—

第25回近森病院公開県民講座

2025 その最前線

近森病院、救命救急の

脳卒中



あなたの脳を守る!
ここまで進んだ脳卒中治療

12月13日(土)

13:30開場 14:00開演

[会場]近森病院管理棟3階会議室(オンライン配信有)

参加無料/予約可

参加ご予約はホームページより受付

近森 公開県民講座

検索



近森病院本館 1階 B・C



スペース⑨を広げ、CTやMRIなどの検査を待つ間廊下で過ごすことがないように囲ります。

これらのことにより患者さんやご家族の利便性は大いに高まり、また正面玄関ホールも見通しのきく快適な空間になるものと考えています。

ワンストップセンター

● 入退院受付

- ・入院前支援
- ・入院手続き
- ・退院手続き

● 相談窓口

- ・転院・退院のこと
- ・退院後の生活に関すること
- ・医療費のこと
- ・医療の安全対策に関すること
- ・セカンドオピニオンのこと
- ・看護のこと
- ・薬のこと
- ・栄養のこと
- ・脳卒中のこと

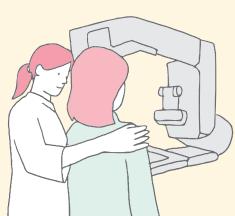
● 病院への苦情やご意見

近森会健康保険組合より

〈職員対象〉乳がん検診実施

バス検診から、院内で行える
ようになりました!

これまで乳がん検診をバスで行っていましたが、今年からは近森病院の乳腺外科で実施。バス検診では対応していない3Dマンモグラフィを導入しており、より精度の高い検査が可能となりました。10月の乳がん検診月間にあわせ、毎年実施予定です。



検査画像を読影する、乳腺センター 杉本センター長。



心臓の穴を閉じる

～心房中隔欠損症に対する カテーテル治療～

高知県内初導入！9月22日初実施

心房中隔欠損症(ASD)とは

当院は9月、高知県で初めて心房中隔欠損症(ASD)に対するカテーテル閉鎖術を実施しました。ASDは左心房と右心房の間に先天的な穴がある病気で、約1,000人に1人に見られます。幼少期は無症状でも、進行すると動悸・労作時息切れ・むくみが出現し、心房細動や肺高血圧、心不全、脳梗塞の原因となり得ます。

県内で治療ができるようになりました

5mm以下の小欠損は自然閉鎖することがありますが、10歳以降は閉じにくく、早期治療が勧められます。治療は開胸手術とカテーテル治療があり、現在は多くが低侵襲なカテーテルで対応可能です。これまで県内で実施できず他県受診が必要でしたが、当院で完結できる体制が整いました。

合併症の予防のためにも

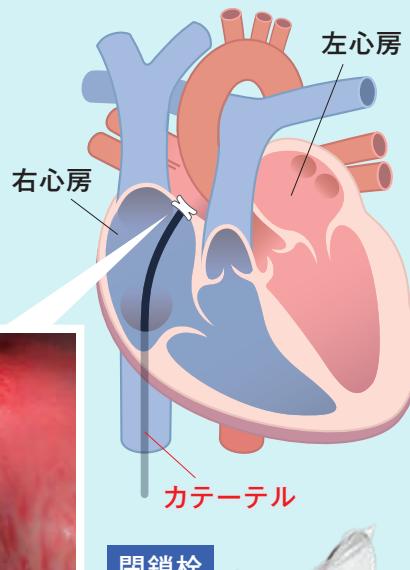
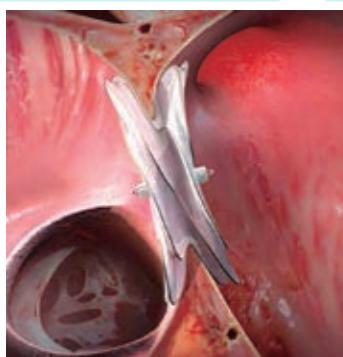
全身麻酔下で約30分、安全かつ簡便に行います。開始以降5例に施行し、心房細動や心不全合併例でも症状が改善しています。「穴は小さいから大丈夫」と言わされた方や経過観察の方も、一度ご相談ください。将来の合併症を未然に防ぐお手伝いをします。



近森病院 循環器内科 部長
細田 勇人 ほそだ はやと

治療イメージ

カテーテルで、足の付け根の静脈から心臓へ閉鎖栓を送り込み、右心房と左心房の間の穴を閉鎖栓で塞ぎます。



カテーテル治療のメリット

- 開胸せずに、比較的簡便で低リスク。
- 心臓の負担を軽減し、合併症を予防。

こんな方は 一度検査を

加齢のせいだけでなく、心臓の病気が隠れていることもあります。気になる症状がある方は、検査をお勧めします。



動悸や息切れ

運動が長続きしない



脈が急に早くなる、乱れる

身体がむくむ



手術部門システム導入による “見える化”と“連携強化”

～DXで手術の安心・安全を
もっと確かに～

2026年2月～

近森病院 麻酔科 科長
野島 宏悦 のじま ひろよし

近森病院では、2026年2月から「手術部門システム」を導入し、本格的な運用をスタートします。

現在、麻酔科や各診療科、看護部をはじめとした多職種が参加するワーキンググループを立ち上げ、より良い導入の形を目指して準備を進めています。この取り組みは、手術に関わるスタッフの連携をよりスムーズにし、患者さんにとって安全で質の高い医療を提供し続けるためのものです。

手術は、患者さんにとって人生の大きな節目であり、医療チームにとっても高い技術と連携が求められる重要な場面です。これまで当院では、医師・看護師・技師などが、それぞれの情報を、紙や口頭でやり取りしていましたが、情報が分かれていることで確認や伝達に時間がかかるものもありました。

新しいシステムでは、手術に関わるすべての情報が1つの画面上にまとめられ、さらにはリアルタイムに院内各所からどの職員でも確認できるようになります。

システム導入のメリット

① 情報の「見える化」で 安心を

- ・情報の伝達ミスや確認漏れを防止
- ・患者さんの状態や準備状況をリアルタイムで把握

② 手術室スタッフの 負担を軽減

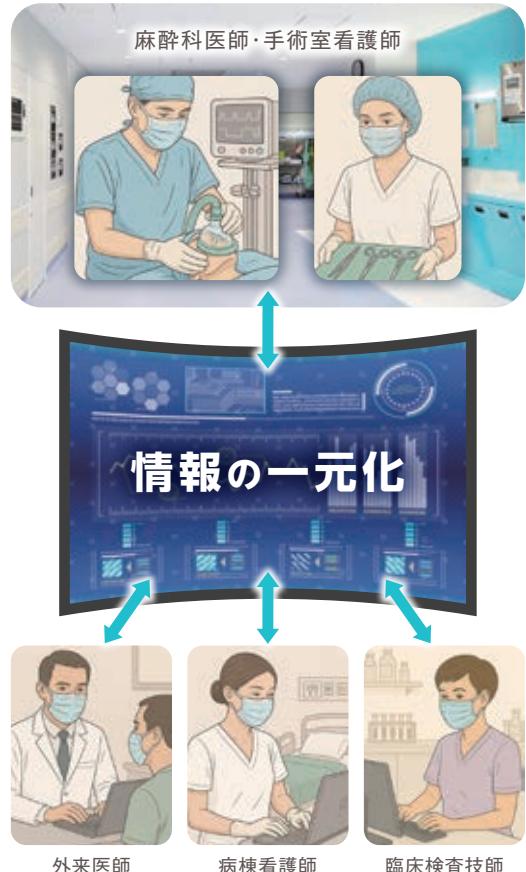
- ・事務作業を減らすことで、手術や患者さんへのケアやサポートに集中できる環境が整う

③ 医療安全の さらなる向上

- ・手術前の準備ミスを防止
- ・患者さんの情報管理がより確実に
- ・ご家族にとっても「安心」につながる体制へ

④ 今後の医療の質と 効率の向上

- ・過去の手術データを活用して業務の見直しやスタッフの教育に役立てる
- ・麻酔記録や手術記録が電子カルテから一元的に確認できるようになる



私たち近森病院は、「近森家」と呼ばれるほど部門間の連携が強い病院です。今回のシステム導入は、そのチーム力をさらに活かす大きな一歩です。これからも、患者さんとご家族にとって安心できる医療を提供し続けられるよう、最新の技術と人の力を組み合わせた取り組みを進めてまいります。



近森会グループ 看護師採用試験

2026
年度

第4回

2026

1/31 SAT. 2/1 SUN.



www.chikamori.com/group/recruit/nurse/ 近森 看護師 検索

お問い合わせ先／TEL:088-822-5231(代表) メール:kango@chikamori.com

生成AI活用チャレンジ2025 開催!



2025.
10/4



身近で頼もしいツールとして

近森会 理事長補佐 兼 近森病院 臨床工学部 部長 平野 友紀
ひらの ゆき

10月4日(土)、「近森会グループ 生成AI活用チャレンジ2025」が開催されました。

今回のイベントは職員一人ひとりが日々の業務や生活の

中で生成AIをどのように活かせているかをテーマに、グループ内から多数の応募が寄せられました。

発表は業務と業務以外の2つのセッションに分かれており、「業務への活用」の発表では、実際にNotebookLM(AIツール)などを活用した業務改善のアイデアや独自でアプリ開発をした発表まで、創意工夫に満ちた演題が続きました。「業務以外」では、生成AIで検索することにより時間を短縮し、余暇時間を有効利用したり、SNSなど日常での実践的な発表やペットの育成について相談し、

継続的・補助的に利用するなど、ユニークな演題がありました。

どの発表も「職場でも取り入れたいから話を聞きたい」、「自分にもできるかも」と思わせる内容で、質疑応答の時間には多くの質問や意見が飛び交い、参加者の皆さんが強い関心を持っていることが伝わり、会場は終始、活気に満ちていました。発表を聞くうちに、「AIは難しいものではなく、身近で頼もしいツールなんだ」と感じられた方も多いかったのではないでしょうか。

今後も、生成AIの力を活かして業務をよりスマートに、そして働く人が少しでも楽に、創造的に活躍できる環境を広げていきたいと思います。このチャレンジをきっかけに、もっと多くの皆さんに生成AIを使ってみようと思ってくださることを願っています。



受賞者

特別賞



— 業務への活用 —

演題 現場課題から生まれた業務改善アプリとAI活用

近森病院 臨床工学技士 西村 哲 にしむら さとし

この度は「生成AI活用チャレンジ」において特別賞を賜り、誠にありがとうございます。

私の取り組みは、物品管理におけるボトルネックであった“正確性”という課題を、生成AIと共に創したアプリケーションで解消するものです。棚卸しでは、在庫数を入力するだけで、在庫数が設定した閾値を下回ると自動で発注が行われます。このシンプルな仕組みによって、年間342時間の削減が実現しました。

他の方の、業務自動化や学習効率向上といった独創的な発表からも、多くの学びと刺激を受けることができました。

これからも生成AIをはじめとする、あらゆるツールを活用し、現場の負担軽減に努め、患者さんへのより良い医療に繋げていきます。

業務への活用

最優秀賞



秘書
山下 永利子 やました えりこ

演題
生成AI×Excelマクロで実現!
看護職員人員管理効率化
—プログラミングはAIにおまかせ

業務以外

最優秀賞



経営企画部 広報課
前野 さくら まえの さくら

演題
AI先生、うちの子犬が今日も自由すぎます! ~生成AIとともに取り組む行動改善と信頼づくり~

優秀賞



健康管理センター
藤野 朋子 ふじの ともこ

演題
AIでマクロに挑戦!
健康管理センター

優秀賞



近森リハビリテーション病院
介護福祉士
中屋 吉博 なかや よしひろ

演題
NotebookLMを活用した
「日常生活機能評価」「FIM」の
採点支援・学習ツールの作成について

優秀賞



近森病院 臨床検査技師
島崎 真由 しまさき まゆ

演題
"使えるAI"で日常も仕事もスマートに ~ChatGPTとCanvaの活用法~

次回

近森会グループ 生成AI活用チャレンジ 第2弾 動画マニュアル チャレンジ

「あなたの動画が、次の人の“わかる”をつくる」
～動画でつなぐ、働きやすい職場づくり～

発表者募集

【日時】2026年3月14日(土) 9:00~12:00

【会場】近森病院管理棟 3階 会議室

申込締切 2026年1月31日(土曜日)

詳細は[こちら](#) [QRコード]

賞金

【最優秀賞】
10万円

【優秀賞】
5万円

【特別賞】
30万円*



*特別賞は発表内容により該当なしとなる場合があります。

出張

第35回

2025年10月10・11日／岡山県倉敷市

VHJ職員交流研修会

画像診断部 部長 田村 淳也
たむら じゅんや



VHJ研究会の趣旨

VHJ職員交流研修会が岡山県倉敷市で開催され、近森会グループからは医師・職員17名が参加しました。VHJ研究会は、全国の民間中核病院が連携し、地域に根ざした良質な医療を目指し、医療の質向上や病院経営の向上を目的とした研究会です。

研修プログラムと主な学び

初日は倉敷国際ホテルでの理事会・総会、倉敷市芸文館での基調講演、倉敷アイビースクエアでの懇親会が行われました。挨拶では、厳しい病院経営環境の中でも、リーディングホスピタルとして各病院ががんばっていくようにと力強いお言葉をいただきました。

2日目は倉敷中央病院にて、「経営・地域連携」「看護管理」「チーム医療」「人材確保と人材育成」「リハビリテーション」の5部門に分かれた分科会が開かれ、私は「チーム医療」に参加しました。各病院の業務効率化やDX推進の実践事例を共有し、グループワークでは活発な意見交換が行われました。

午後からの倉敷中央病院見学では、歴史ある街並みに調和した美しい建物と整理整頓され広々とした環境や美術展示に感銘を受けつつ、



今後の業務改善の参考となる多くの学びを得ることができました。

今回、他施設の方々と意見交換や名刺交換を行い、帰宅後も連絡を取り合い、良い交流をもつことができました。2日間ではありますが職員同士でも移動や食事を共にし、職員としての一体感も育みながら、実りある出張を体験できました。

交流の成果と今後の展望

今回、開催にあたり準備をいただいた倉敷中央病院の皆さんに感謝申し上げるとともに、今後も加盟病院とともに地域医療の発展に努め、今できることをみんなで考え、みんなでやってみて、みんなが笑顔で幸せになれることを目指していきたいと思います。



◀ 風情ある街の風景に溶け込む様に建つ倉敷中央病院。



ハッスル研修医

返事は大きな声で

初期研修医 1年目 本井傳 翔太
ほんいでん しょうた

師走の候、寒さが身にしみる季節になって参りました。皆様、いかがお過ごしでしょうか。私が入職してあっという間に1年が経とうとしています。普段真面目に仕事を頑張っておりますが、そろそろお調子者なところがばれるのではないかとヒヤヒヤしながら過ごしております。仕事にも慣れてきて、研修医は来年の後輩も決定しました。自分がもうすぐ先輩になることに驚きが隠せません。1年目の新鮮さを失いつつありますが、誰よりも声を大きく元気にフレッシュに精進したいと思います。これからもどうぞよろしくお願いします。



ファミーユ高知より

2025年9月27日

2025年度

虐待防止に係る法定研修 開催



高知ハビリテーリング
センター
虐待防止委員会
委員長
谷岡 真代
たにおか まさよ

9月27日に実施した研修会は、障害福祉サービスにおける必須研修の一環として「意思決定～『わたし』の選択が尊重される社会をめざして～」をテーマに取り上げ、企画しました。

講演では、淑徳大学副学長・教授である鈴木敏彦先生を講師にお迎えし、意思決定支援の理論的背景から現場での実践について学びました。

利用者さんを中心とした「チームによる意思決定支援」について、チームのメンバーが「意思決定の中心は利用者本人である」という認識のもと、支援の進展に資するチームづくりを実践することで、本人の意思が尊重され虐待防止の最善策となることへの理解が深まりました。

今後も日々の実践を振り返りながら、支援チームの一員として模索を継続していきたいです。



▲ 意思決定支援の背景から現場での動きまで、分かりやすく解説された鈴木敏彦先生による講演の様子。



すまいる♥ナース通信 # 専門看護師

PICS予防をぜひ一緒に!

近森病院 ICU病棟 看護師長／ 齋坂 美賀子
急性・重症患者看護専門看護師
さいさか みかこ



みなさま、集中治療後症候群(PICS:Post-intensive care syndrome)という言葉を聞いたことがありますか？

PICSは、ICU在室中あるいはICU退室後、さらには退院後に生じる身体機能・認知機能・精神の障害のことで、ICU患者さんの長期予後ののみならず、患者さんのご家族の精神にも影響を及ぼすとされています。ICUでは、このPICSを予防するためのバンドル(※)を用いた介入や、記憶の補完・是正のためのICU日誌など、様々な取り組みを多職種チームでしています。併せて、私はICUを退室された患者さんの病棟訪問を不定期ですが行っています。訪問では、ICUでの体験を患者さんに語ってもらいながら、記憶の整理や不安の程度の評価やケアを行っています。

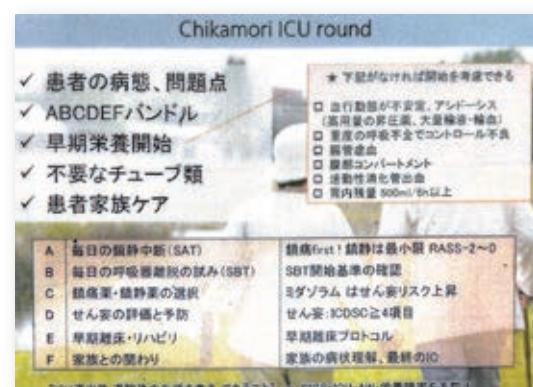
生命の危機を乗り越えた患者さんの、退院後のQOLを改善するためには、集中治療とその後の病棟でのケアがシームレスに継続できることが重要です。その橋渡しの役割を担っていきたいと思っていますので、ぜひいつでもお声がけください。



近森会グループ看護部
マスコットキャラクター
モリンちゃん

※ バンドル：科学的根拠のある対策を複数まとめて行い、最良の対策をとること。

▼ ICUで使用しているPICS予防バンドルの携行資料。



QRコード
PICS ICU AW 対象医療を予防!

Newシリーズ

循環器内科の菅根先生がドイツ・ボンに留学中です。
今月より、現地の近況や医療情報などをレポートします。



ドイツ留学 Report

vol.1

Bonn大学病院(留学中)
循環器内科 菅根 裕紀
すがね ひろき



ボン便り

旧都で学ぶ日々の始まり

皆様お久しぶりです、循環器内科の菅根裕紀です。自分はこの9月からドイツのボン(Bonn)に留学しています。このコーナーでは、ドイツの生活や医療について紹介していきたいと思います。

初回ということで、まずは今住んでいるBonnについて書きたいと思います。Bonnは、ライン川沿いにある小都市です。旧西ドイツの首都ですね。都会か田舎かと言えば間違いなく田舎で、近くの大都市であるケルン(Köln)やデュッセルドルフ(Düsseldorf)に比べると、自然が多く、落ち着いています。Bonn大学病院は山の上にあり、そこまで徒歩で通っていますが、毎日トレッキング(荒天時は登山)をしている気分です。なぜ徒歩なのか、それは自転車で登るには坂がきつすぎると、バスは時間通りに来ないからです。

路面電車と旧都の風情、そしてベートーベン

人口は約30万人であり、ちょうど高知市と同じくらいですね。市内の主な公共交通機関が路面電車(Straßenbahn)であるところも高知市と共通しています。このStraßenbahnだけは唯一、時間通りに運行される公共交通機関であり、自分は大好きです(Bonn大学病院周辺へは運行していません、なぜだ…。)。旧首都ということで、歴史ある建物も多く存在しており、その多くは美術館や博物館となっています。

Bonn出身の有名人といえばやはり、ベートーベン(Beethoven)でしょう。市の中心にはBeethovenにまつわる美術館が存在し、Bonnの中心にある大きな広場にはBeethovenの銅像があり、ベートーベン広場(Beethovenplatz)と呼ばれています。待ち合わせに最適です。そして、Beethovenplatz以外にも、町の至る所にポップなBeethoven像を見つけることができます。以上がBonnの紹介となります。

つまり、まとめると、観光に来るにはBonnは小さすぎると言えるでしょう。ではまた次回、さようなら(Tschüss)。



▲ Bonnとライン川。ドイツ語では川の名前は全て女性名詞ですが、なぜかライン川だけ男性名詞です。理由は、父なる川だからとのことです。

▲ ポップなBeethoven像。ちなみにピンクや紫の像もあります。

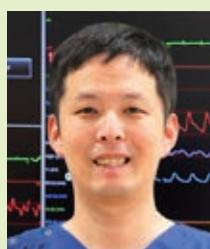
New face

- ① 所属
- ② 出身地
- ③ 最終出身校
- ④ 卒業年次
- ⑤ 趣味など

梁瀬 賢志 やなせ けんじ

- ① 麻酔科医師
- ② 広島県福山市
- ③ 香川大学
- ④ 2022年
- ⑤ サッカー観戦が好きです。

患者さんに寄り添う医療を心がけていきます。



感謝状



第11回 －看護のこころをつなぐ－ CHNS 誓いのセレモニー

2025年10月3日

※CHNS…
Chikamori Hospital
Nursing School



実習に繋がる誓いのセレモニー

近森病院附属看護学校 専任教員 田原 佳奈 たはら かな

「助け合い・高め合い・寄り添う」をコンセプトとした11期生の誓いのセレモニーが、10月3日に行われました。限られた練習時間で、本番を無事に迎えられるのだろうかと心配になる場面もありましたが、当日白衣を着てキャンドルを持った学生達の姿は堂々としたものでした。一人ひとりがしっかりと誓った意思をもって誓いの言葉を宣誓し、実習に行く心構えができたと思います。

また、式典後の臨床との輪を育む会では、「臨床の方と直接話ができるよかったです。実習に行くのが楽しみになった」と嬉しそうに話す学生達の姿がありました。



準備の中心となり、学生をまと
めた実行委員の皆さん。

2025年度
職員旅行

2025年
10月20～22日

東京ディズニーリゾート 1班
(2dayパス付)



北海道
フリー 1班
2025年
10月27～29日



近森病院附属看護学校 創立10周年記念式典



2025年10月5日

近森病院附属看護学校 創立10周年記念パーティー
“ありがとう”の10年、そして未来へ



近森病院附属看護学校 校長 山崎 正博 やまさき まさひろ

2025年10月5日、近森病院附属看護学校 創立10周年記念式典を挙行しました。

開校は2015年4月7日。近森病院附属看護学校 設立準備委員会の立ち上げから1年4か月という短期間のうちに、第1期生42名を迎えて開校式を行いました。

創立10周年記念式典には、創立時に奮闘された設立準備委員や初期の看護教員を含め、101名の方々にご参加いただきました。

新校舎移転時に記念講演をいただいた美術史家・森 耕治先生には、今回も「西洋絵画に見る、寄り添う姿」という看護学校にふさわしい講話を賜り、式典に華を添えていただきました。

また、開校以来の歩みをまとめたスライドショーを上映し、この10年の歴史を懐かしく振り返りました。式典後のパーティーでは、50名の卒業生を含め、苦労話や思い出話に花が咲きました。

さらに、プロムナードには管理部企画課が作成した学年ごとのパネルが並び、それを囲んで卒業生や関係者の話の輪が広がっていました。

卒業生314名は近森会や県内外の医療施設で活躍しています。本校は、県内有数の看護学校として着実に発展を続けており、これからも新たな歴史を刻んでまいります。

皆さまの一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



▲司会を務めた平瀬副学校長

◀山崎学校長(筆者)



▲昼夜二部にわたりご講演いただきました。昼の在校生向け記念講演では、「ゴッホの絵に見る痛みと希望」をテーマにお話しいただきました。



学校創設へ尽力いただいた方々へ花束贈呈。右から、近森相談役(初代校長)、和田氏(初代事務局長)、尾原氏(初代副校長)、竹村氏(初代教務主任)

写真上から、①②創立10周年の記念行事に臨んだ在校生たち。10年の軌跡映像には笑顔も。③～⑥記念パーティーは卒業生を含む関係者約100名が参加しにぎわった。



1



2



3



4



5



6



看護師国家試験合格に向けて 頑張っています

近森病院附属看護学校 3年生主担当 小野 五月
おの さつき

2 年生の時から実習のない日を活用して看護師国家試験合格に向け、勉強に取り組んできました。今年の試験対策は全国模試後の見直しに力を入れています。クラスの中に数名リーダーを設定し、グループ学習を中心に進めてきました。メンバー間で試験問題を丁寧に見直し、レビューブックで確認・アウトプットし、付箋にポイントをまとめ自分なりのノート作成(写真)もしています。

9月26日に実施された直近の全国模試では目標としていた「必修問題8割超え」を全員がクリアできました。

このまま2月15日の国試本番に向けて気を抜かず継続学習をしていきます。



詳細は [近森看護学校](#) で検索、または右のQRコードより公式ホームページをご確認ください。社会人や保護者の方の参加も大歓迎です。



14ページ「ぶらり旅」の問い合わせの答え:温泉が自然に地表に湧き出る「自然湧出量」は毎分37,000リットルで日本トップですので、湯畠には豊富な温泉が流れています。ちなみに、大分県の別府温泉郷は源泉数、全体の湧出量が2,847本、毎分137,040リットルで国内第1位ですので、別府ではあちらこちらから白い湯気が立ち上っています。



リレーエッセイ

私の保護猫

近森病院 外来センター 看護師

伊興田 美香 いよた みか



我が家には保護猫がいます。愛猫の姿にメロメロになってしまい、1匹から2匹、3匹と家族が増えました。ひょんなことから保護猫活動にも参加するようになり、日々の生活が猫ちゃん中心の生活となっています。

愛猫は何をしても可愛くて、しっぽを立ててスリスリ、ゴロゴロのどを鳴らす、飼い主への熱い視線、ふみふみなど可愛い仕草を見ているだけで「オキシッシュン」という幸せホルモンが分泌されて癒されます。

日々の生活が猫ちゃん優先になり、生活習慣や家族関係にも良い変化が起きたと感じています。保護猫活動もちょっぴり行っています。猫を飼ってみたい方がいましたら、ご一報ください。



私の趣味

私の癒し

近森病院 6階B病棟 看護師

野崎 春菜 のざき はるな



この1ヶ月間、自分の趣味についてじっくり考えてみましたが、なかなか思い浮かばず…。悩みに悩んだ末によく出てきたのが「動物と過ごすこと」でした。

小さい頃から動物と一緒に暮らしており、現在は犬1匹と鳥2羽と生活を共にしています。

休日は愛犬と散歩に出かけたり一緒に遊んだりと、毎回とても充実した時間を過ごしています。朝から一緒に寝て、1日が終わりかけていることもあります(笑)。

あまりにも可愛いので写真もたくさん撮るのですが、カメラを向けるといつも尻尾を向かれてしまい、唯一うまく撮れたお気に入りの1枚を載せておきます(笑)。



鳥はヒメウズラの卵から孵化させた子で、生まれたときからその成長を見守っています。

これが趣味と言えるのかはわかりませんが、毎日ペット達を溺愛している時間が、私にとって何よりの幸せだと思います。

FREE

私の〇〇

まるまる
〇〇にフリーワードを入れて
語っていただきました

私の「チチ贅沢」

近森リハビリテーション病院
リハビリテーション部 作業療法士

門田 宝 かどた たから



先日、焼き肉店の限定コラボメニューを目当てに妻と行ってきました。普段はあまり焼き肉を食べることがない私ですが、妻が最近はまっているグループとのコラボをしていること、SNSの「特典付き・数量限定」を目にしたのがきっかけです。

お目当てのメニューは熟成カルビと上ハラミ、豚カルビの盛り合わせ、さらに抽選で6種類のコースターのどれかが当たるという特典でした。期待を胸に注文し、肉の旨みを楽しみながら抽選



結果を待っていましたが、残念ながら妻の推しキャラクターではありませんでした。私自身はそれほど詳しいグッズではありませんでしたが、少しだけ悔しかったため同様のメニューを計4回注文しました。しかし、4回目でも目当てのグッズは出さず、少し残念そうな顔をしている妻でした。とはいっても、限定メニューの味は絶品で、香ばしい焼き目とろける脂にすっかり満足。特典は逃したけれど、あの味ならまた行きたくなると思えた夜でした。



西の河原、大小50の源泉が湧き出ている。



夜の湯畠

草津よいとこへ一度はおいでへ 草津温泉

12月はじめ、長野新幹線に乗って草津温泉へぶらりと行きました。草津温泉は日本有数の温泉地として知られ、湯畠を中心に立ち上る湯気とともに癒しのひとときを楽しめます。

ちなみに、草津温泉は有馬温泉と下呂温泉とともに日本三名泉の一つですが、温泉地別ランキングでトップの項目があります。何でしょうか？（答えは12ページの下）



源泉は湯滝に流れ落ち、それぞれの宿に運ばれます。



湯畠、7本の長い木桶を通して55.7℃の源泉の温度を下げている。

湯滝の灯籠は、200年近い歴史のある石灯籠です。



募集職種

- ・医師
- ・看護師
- ・介護福祉士
- ・救急救命士
- ・作業療法士
- ・言語聴覚士
- ・診療放射線技師
- ・臨床検査技師
- ・事務

詳しくは、近森会グループHPの採用ページをご覧ください。



CHIKAMORI COLLECTION

近森コレクション

不定期
掲載



ラマニーラム
内田 貴裕 氏 (アートセンター画業)



アートセンター画業

編集室通信

6月からランニングを始めました。7月に出張先の東京で初の皇居ランを達成して以来、ご当地ランに夢中です。大阪城や熊本城、福岡、北海道など、早朝に知らない土地を走るのはとても気持ちが良いです。毎年2月にある龍馬マラソンでは、いつかフルにも挑戦してみたいと思っています。ご当地ランナー

診療数 2025年10月

—電子カルテ管理課—

●近森会グループ

外来患者数	17,705人
新入院患者数	1,097人
退院患者数	1,103人

●近森病院(急性期)

平均在院日数	11.77日
地域医療支援病院 紹介率	96.57%
地域医療支援病院 逆紹介率	310.63%
救急車搬入件数	570件
うち入院件数	319件
手術件数	583件
うち手術室実施	373件
うち全身麻酔件数	258件

掲載のべ400人達成!

高橋 佑輔

Yusuke Takahashi

近森オルソリハビリテーション病院
リハビリテーション部 理学療法科 理学療法士

聞き手／ひろっぱ編集部

理学療法士として、近森オルソリハビリテーション病院に配属されて16年目を迎える高橋理学療法士(PT)。丁寧な敬語で話し、繊細で優しい印象を受けるが、実はテコンドーの元全国優勝者でもある。仕事モードのおだやかさとは異なるもう一つの顔。今回も楽しい話が聞けそうだ。

空を舞う華麗なキックを決めて

テコンドーとは、蹴り技を中心に心身を鍛える韓国発祥の武道。高橋PTは型の部で個人3位(2015年)、団体優勝(2011年)の成績を収めた。「同級生が道場を開いたのがきっかけで24歳から始めました。競技には型と組手があって、組手は叫びながら飛び蹴りをしたりするのが気持ちいい。型は、中学・高校とバスケをしていたのでジャンプ力があったのと、よさこい踊りで磨いたダンスの



下地のおかげで、全国で勝てちゃいましたね」。すでにテコンドーは卒業しているが、当時は稽古もかなり追い込み、昼休みもを利用して筋トレや柔軟をしていたそうだ。

仕事と家事と

家族は、同じくPTとして近森リハビリテーション病院に勤める妻と3人の子ども。「妻とはお互いの仕事内容が分かるので、遅くなる時なども理解しあえています。育児も悩みながら乗り越えていますので、良い関係か



と。テコンドーやよさこい踊りを続けられたのは家族のおかげもあります」と感謝を伝える。高橋家では、妻が学校関係や金銭面を、夫が主に料理、買い出し、掃除を担当。さらに高橋PTは地域の子ども会の会長も務めている。「夏休みは忙しいですね。ラジオ体操に行って、朝食と子どものお弁当を作つてから出勤なので…。夜、定時退社を心掛けているのはそういう面もありますね」と添えた。

よさこいは生涯現役を目指す

高橋PTのライフワークとなっているのがよさこい踊り。17年間踊り続けており、昨年、今年はチーム「ちかもり」で演舞した。インストラクターの経験もあり、セントラルグループで踊った時はスガジャズダンススタジオさんと懇意になり、公演のサポートスタッフを務め、スタジオに入会もしていたほどの本格派。「子どもと同じチームで出場したこともありますが、娘は覚えたならOKというタイプで、僕は練習を重ねて極めたいですね。今は別々のチームで踊っています」。熱中しているよさこいの話になると漏れ出す闘志。テコンドーで優勝をした背景にも、別格級の追求があるってことだろう。



PTとしてのやりがいとプライド

「PTの仕事は楽しいです。患者さんが、僕とりハビリをすることで、良くなってくれたり笑顔になっていくと、心の中でガッツポーズを

しています」。

「30歳を過ぎた頃、仕事のキャリアアップと育児のバランスについて悩んだ時期があります。その時は育児を優先し、落ち着いた今は、理学療法士の技術を磨く方にシフトしています。もちろんチーム全体のレベル向上はマストなので、後輩育成にも取り組んでいるつもりです」と、技術を誇りに邁進する日々を前向きに話してくれた。

人生の主役は自分

テコンドーの選手として自分と向き合った20代。スポーツを引退し育児に悩み、そして乗り越えた30代。仕事を楽しみながら家族を大切に生きたいと願う40代。仕事もよさこい踊りも続けていくうちに、「人に喜んでもらえることが喜び」と感じるようになった。一方で、「僕は小さいころからずっとナルシスト。どんな人生を選択してもこの人生の主役は自分で」と雄弁に。スポーツと仕事のバランスの話が聞けるかと臨んだ取材であったが、全く異なる表情に出会うことができた。

「僕は育児に悩んだからこそ、子育てをしながら働く大変さも分かっているつもりです。当時は、職場のみんなにカバーもしてもらいました。だから、これから子育てしながら働く後輩には、仕事はみんなでカバーできるので、家庭も大切にしてほしいと思っています」。

患者さんを良くしたいという気持ちがあれば、男性も女性もいろいろな働き方があっていい。多彩な働き方の連絡プレーも近森会グループの魅力。やりがいを持って仕事を長く続けられるためのお手本の一つにしてみたいと思った。

愛されナルシスト
強く優しい

